



かながわの交通

11

今年の交通安全年間スローガン (警察庁長官賞、最優秀作) ——運転者(同乗者を含む)に対するもの——

飲みません 断る勇気 誘わぬ礼儀

飲酒運転根絶運動



乗る人に 飲ませるあなたも 犯罪者

平成21年度 大規模交通安全ポスターコンクール入賞作品 大磯町大磯小学校4年(入賞当時) 松本 彩良さん
 神奈川県交通安全対策協議会 神奈川県・市区町村・神奈川県警察

飲酒運転根絶強化月間ポスター

ハンドルキーパー運動推進中!

飲酒運転根絶!!
今日のハンドルキーパーさんは?

◎県内の交通事故発生概況 (10月末)

年別	区分	発生件数	死者数	傷者数
平成22年		34,255	138	40,768
平成21年		35,426	138	42,106
増減数		-1,171	±0	-1,338
増減率		-3.3	±0	-3.2

◎県人口・運転免許人口

	総数	男	女
県人口	9,029,996	4,543,159	4,486,837
免許人口	5,496,098	3,219,639	2,276,459
割合	1.6人に1人	1.4人に1人	2.0人に1人

(県人口は9月1日、免許人口は9月末現在)

飲酒運転根絶強化月間



実施期間

平成22年11月1日(月)～
11月30日(火)の1か月間

趣旨

この運動は、依然として後を絶たない悲惨な交通事故を引き起こす飲酒運転を根絶するため、飲酒運転の危険性、罪悪性を訴える運動を県民総ぐるみで展開します。

スローガン

乗る人に 飲ませるあなたも 犯罪者

重点

- 飲酒運転根絶運動の周知徹底と広報啓発
- 飲酒運転を助長する環境の根絶

交通安全協会の推進事項

● ハンドルキーパー運動を

ドライバーや飲食店等に対して積極的に働きかけ、本運動の実践に協力していただきます。

● キャンペーンやイベントなどの機会を利用して、「ハンドルキーパー運動啓発用テープ」を活用した飲酒運転の根絶を呼びかけます。

● 機関誌「かながわの交通」に飲酒運転根絶に関する記事を掲載し、効果的な運動を推進します。

● 警察と連携を密にして、飲酒運転根絶の気運を高めるとともに、警察が行う活動に協力します。

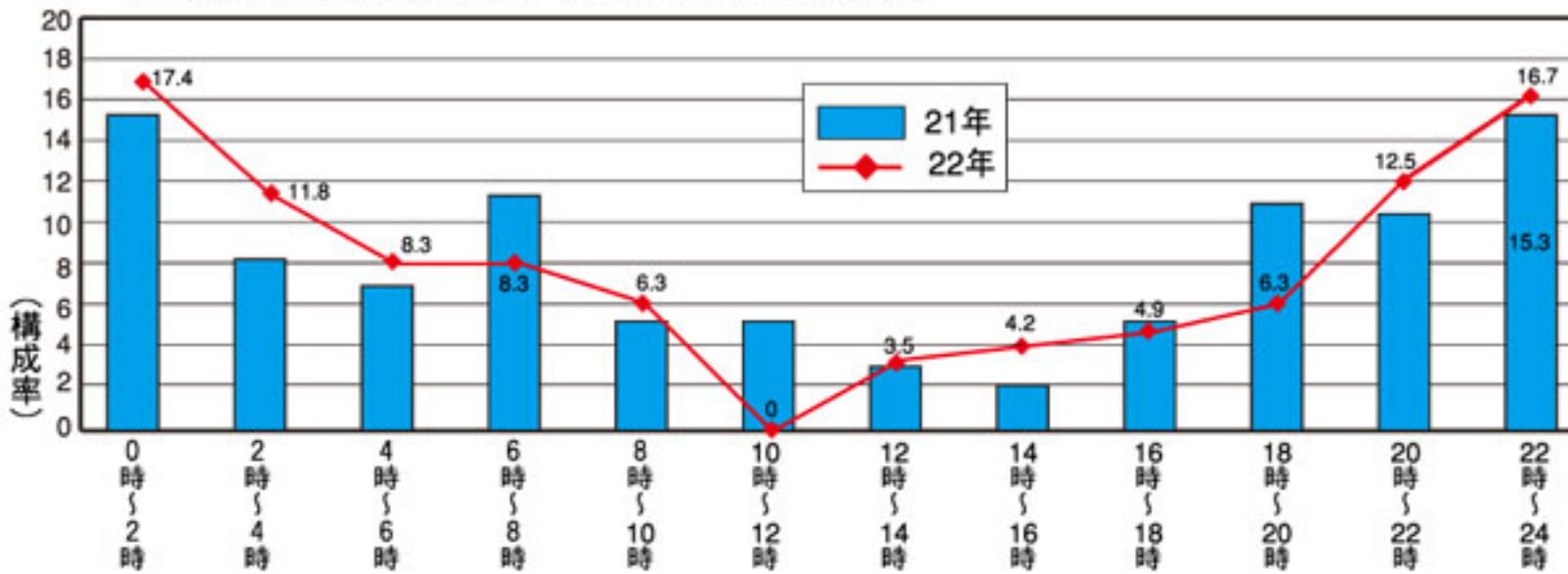
1 交通事故発生状況 (平成22年9月末現在)

区分	件数	死者	負傷者
全事故	30,684件	126人	36,636人
前年比	-996件	+9人	-1,012人

2 飲酒事故 (平成22年9月末現在)

区分	件数	死者	負傷者
全事故	144件	8人	204人
前年比	-22件	+3人	-34人

3 時間別飲酒事故発生状況 (平成22年9月末現在)



4 地区別飲酒事故発生状況

	平成21年中		平成22年(9月末)	
	件数	うち死亡事故	件数	うち死亡事故
横浜市内	78件	1件	61件	4件
川崎市内	32件	1件	17件	3件
三浦半島地区	17件	0	15件	0
湘南地区	56件	1件	21件	1件
相模地区	44件	2件	27件	0
高速道路等	1件	0	3件	0
合計	228件	5件	144件	8件

(県警交通部資料)

県内の飲酒運転による交通事故発生状況

発生件数では横浜市内が最も多く、次いで相模、湘南地区の順

地区交通安全協会事務長会議の開催



挨拶する片山専務理事

10月5日(火)午後、県協会会館で「地区交通安全協会事務長会議」が開催されました。冒頭、県協会片山専務理事からは、各地区協会相互の連携、公益法人制度の構築に向けての県協会と地区協会の関係等について、来賓を代表して県警交通部萩原交通総務課長からは秋の全国交通安全

運動の取組結果や多発する高齢者の交通事故防止への取組み等についてそれぞれ挨拶があった後、警察本部、県くらし安全交通課等から当面の取組み、県協会の各部長からの当面の諸問題等について検討協議が行われました。また、地区協会を代表して、泉交通安全協会櫻井事務長から「重ねて安心マップ事業の流れ」、田浦交通安全協会徳田事務長から「推進委員だよりの発行について」、相模原南交通安全協会徳田事務長から「高校生に対する自転車マナーアップ運動(バイハイ作戦)について」それぞれ発表があり、今後の協会運営に係る問題点の把握や運営指針等について確認しました。

自転車安全整備制度(TSマーク) 推進関東ブロック会議の開催

10月7日(木)午後、県協会会館で(財)日本交通管理技術協会主催、「自転車安全整備制度推進関東ブロック会議」が開催されました。この会議は、毎年、ブロック内の都県

自転車安全整備制度(TSマーク) 車商共同組合理事長)及び日本交通管理技術協会支所長(交通安全協会専務理事)が一同に会し、警察庁、関東管

ク制度)の普及・促進を図るため開催されたものです。会



議に先立ち表彰が行われ、次いで主催者側から川野理事、来賓からは警察庁、管区警察局、神奈川県警察本部交通部等の幹部から、それぞれ挨拶を頂いた後、主催者側から「TSマークの普及拡大強化策」についての説明がありました。続いて群馬、新潟、長野、埼玉、神奈川の各支所長等からそれぞれ事例発表があり、今後のTSマークの普及拡大に向けた熱心な討議が行われました。

地区交通安全協会 会長会議の開催

10月21日(木)午後、県協会会館で地区交通安全協会会長会議が開催されました。会

議には、岡崎会長のほか、県協会役員、地区協会会長、県からは佐藤交通部長、県からはくらし安全交通課長が出席されました。会議は、岡崎会長、来賓を代表して佐藤交通部長から挨拶があり、引き続き県協会片山専務理事から、「公益法人認定に向けた県協会の取組み」、各部長からは、県協会を取り巻く当面の諸問題等についての説明があり、その後、活発な討議が行われました。



挨拶する岡崎会長

二輪車安全運転指導員 資格審査に16人が挑戦

県二輪車安全運転推進委員会(片山隆行委員長)では、県警交通部、二輪車安全運転普及協会の協力を得て、10月23日(土)に二輪車安全運転

指導員資格審査を実施しました。この審査は、二輪車運転者に対する安全教育の充実を図ることを目的に毎年行われていますが、当日は、開講式に続いて、午前中は県警担当官による適性検査、学科講習・学科テストが、午後からは二輪車推進委員会特別指導員の指導で実技訓練が行われた後、実技テスト、面接が行われました。合否の結果は、11月中旬ごろ、県二輪車安全運転推進委員会から受験者本人に通知することになっています。



タイムマシーンをおげたい(6)

警察官からみた交通死亡事故の回顧録

親心



閑静な住宅街で、忘年会帰りの男性が事故で亡くなった。不意の事故、突然の逮捕に、乗用車を運転していた男性は、自分が犯した過ちを悔やみ、また、人の命を奪ってしまったという強い罪悪感に苛まれる一方で、未だ現実を受け入れられないといった様子で、終始下を向き、小声で受け答えをしていた。

亡くなった男性には、三人の小さな子供がいた。男性の奥さんは、「主人は子供に対して、道路を渡る時は、必ず横断歩道を渡ることで、交通ルールには特に厳しく教育をしていた。」と、涙ながらに話をされた。子供を交通事故に遭わせたくないという親心から、熱心に指導していたのだろう。男性の父親は、「息子が車道を歩いて、事

故に遭った事が、今でも信じられない。息子が車道にいたのであれば、息子は近くで何かがあつて助けに行かため、車道に出たのかもしれない。」

と、どうしても我が子を肯定してやりたいという親心から、息子が車道を歩いて事故に遭ったという事実を受け入れられずにいた。小さな油断と酒の飲み過ぎで、二つの家庭が崩壊した。毎日発生する交通事故。その事故の中でも死亡事故は、当事者双方の家族もろとも人生を大きく変えるもの。これ以上、悲惨な家庭を生み出してはならない。

県協会に「掲示板」が設置されました



県協会では、このほど会館正面玄関脇に「掲示板」を設置しました。この掲示板はアルミ製で前面ガラス仕様となっており、大きさは、縦95センチ、横18センチで地上高85センチに設置されています。掲示板には、機関誌「かながわの交通」や時期に応じたポスター等を掲示して、県協会の広告塔として活用しています。

トピックス

「公益財団法人移行認定」の申請（電子）式が行われました



県協会では、かねてから準備作業を進めてきた「公益財団法人移行認定」の申請を行いました。申請式には、岡崎会長出席の下、今まで移行認定準備作業に携わってきた職員等が見守る中、会長自ら「キーボード」を操作して、インターネットを介して県主管課への電子申請を行いました。認定された暁には、「公益財団法人神奈川県交通安全協会」と称することとなります。

インフォメーション

- 飲酒運転根絶大会—12月2日(木)、相模原市民会館
- 年末の交通事故防止運動—12月11日(土)～20日(月)
- 二輪車安全運転推進委員会—12月8日(水)
- 自転車安全教育推進委員会—12月8日(水)
- 新規賛助会員のご紹介
株式会社 相鉄エイジェンシー(横浜市神奈川区)

自転車シミュレーターを使用した交通安全教育レポート



県警察本部交通総務課(相模原市派遣) 竹内洋一
相模原市交通安全課 森 雅樹

1 はじめに

相模原市内の、平成21年中における人身交通事故発生件数は、3,914件であり、「自転車に関係する事故」が1,318件で全事故の33.7%と 県下平均より9.8ポイント高い実態にあります。また、中学生以下の子どもが関係する人身交通事故は411件であり、うち「自転車に関係する事故」は218件(53.0%)と半数以上を占めています。このような現状を踏まえ、相模原市においては小学校の夏休み期間を利用して、児童(受講者237人)を対象とした「自転車シミュレーターを使用した交通安全教室」を市立児童交通公園において16日間にわたり実施し、基本的な交通ルール・マナーを習得させ交通事故防止を図ることとしました。受講者からのアンケートをまとめたので交通安全教育の参考にしてください。

2 アンケート実施結果(回答者200人)

■自転車の運転は好きですか?

- 好き 145人 (72.5%)
- 少し好き 27人 (13.5%)
- ふつう 11人 (5.5%)
- 少し嫌い 1人 (0.5%)
- 嫌い 1人 (0.5%)

■自転車シミュレーターを運転して楽しかったですか?

- 楽しい 162人 (81.0%)
- 少し楽しい 23人 (11.5%)
- ふつう 11人 (5.5%)
- 余り楽しくない 1人 (0.5%)
- 楽しくない 2人 (1.0%)

- 無回答 1人 (0.5%)

※楽しい理由=「本物を運転しているようだ。」「危険な運転箇所を理解できる。」等

■危険行為をすると、注意や助言がアナウンスされますが、内容を覚えていますか?

- 覚えている 156人 (78.0%)
- 覚えていない 44人 (22.0%)

※注意・助言の内容=「発進時の後方確認」「交差点等での左右確認」等

■今後、シミュレーターと従来の方法による交通安全教室と、どちらを受けたいですか?

- シミュレーター 125人 (83.3%)
- 従来の教室 24人 (16.0%)

このほか、「自転車の信号無視」「一時不停止」「二人乗り」「傘さし運転」「携帯電話使用運転」についての問いについては、殆どの人が「危険である」との認識を持っています。

3 今後の在り方

自転車シミュレーターは、自転車を運転する際に起こりうる危険を、誰にでも、何回でも体験させることが可能であり、危険予測力、交通安全意識の向上を図ることができる機器であります。今回の教室を通じて感じたことは、児童のシミュレーターに抱く強いゲーム感覚が、運転を開始すると、バーチャル映像に対し「上手に運転する。」「上手に危険箇所を通過する。」ことに終始する余り、児童達の日常の運転には「多くの危険が潜んでいる。」という意識の醸成を図ることができなかった。今後、交通事故防止に必要な「危険予測力」を向上させるためには、児童の自転車シミュレーターに対するゲーム的感覚を払拭し、機器の長所を十分に引き出せるような交通安全教室の検討が必要と思われます。

注:本稿は、紙面の都合により本文からの抜粋により再編しました。なお、本文は当協会ホームページに掲載されていますのでご覧下さい。

～警察本部長・地域交通安全活動推進委員協議会連絡協議会会長連名表彰～

受賞おめでとう
ございます

個人25人、3団体が受賞

○交通安全功労(個人)受賞者

徳永福次(加賀町) 小室武彦(戸部) 鈴木忠行(戸部) 高部精三(鶴見) 皆川昭市(港南) 笠原孝雄(港南) 渡邊寛(港南) 鈴木一美(栄) 関保二(栄) 渋谷正継(瀬谷) 原利成(幸) 山本忠義(中原) 松本玲子(中原) 加藤武(中原) 向田諭司(田浦) 森隆雄(鎌倉) 藤沢浩子(鎌倉) 近藤桂子(大船) 荻原峰子(大磯) 峰村千寿子(大磯) 柳川操(厚木) 山口隆一(厚木) 恒田美晴(大和) 武隈正雄(相模原) 久保田博夫(相模原北)

○交通安全功労(3協議会)受賞団体

- 横浜水上警察署管内地域交通安全活動推進委員協議会(代表…渡邊清治郎)
- 幸警察署管内地域交通安全活動推進委員協議会(代表…山下秀男)
- 大和警察署管内地域交通安全活動推進委員協議会(代表…古郡保正)

〈敬称略〉



ハンドルキーパー運動の紹介

その152 三浦市安全運転管理者会から

～ 安全運転管理者法定講習会で ハンドルキーパー ～

三浦市安全運転管理者会（石坂明義会長）では、三浦市民ホールで行われた「安全運転管理者法定講習会」で石坂会長がハンドルキーパー運動を説明し、この運動の理解と実践を呼びかけました。



その151 葉山町交通安全協会から

～ 飲食店を訪問してハンドルキーパー ～

葉山町交通安全協会（石郷岡重臣会長）では、秋の全国交通安全運動の重点の一つである「飲酒運転根絶運動」を推進するため、葉山マリーナの飲食店を訪問して、ハンドルキーパー運動の実践を呼びかけました。



その154 津久井交通安全協会から

～ 津久井交通安全のつどいで ハンドルキーパー ～

津久井交通安全協会（諸角光雄会長）では、市内串川小学校校庭で行われた「津久井交通安全のつどい」で模擬飲酒体験コーナーを設置し、来場者に、飲酒体験ゴーグルを着用した状態でのボール遊びを通じて飲酒による身体動作機能の低下を実験してもらい、ハンドルキーパー運動の有用性を呼びかけました。



その153 相模原交通安全協会から

～ 交通安全フェアでハンドルキーパー ～

相模原交通安全協会（井上政市会長）では、市内鹿沼台交通公園で行われた「相模原市交通安全フェア」で来場者に飲酒運転根絶を呼びかけるため、飲酒疑似体験ゴーグルを活用して飲酒運転の危険性を訴えたほか、アンケートを実施してハンドルキーパー運動の実践を呼びかけました。





栄交通安全協会「はまっ子隊」
隊長
山田 正利さん

栄区の生い立ちは、古くは、鎌倉郡本郷村、豊田村、長尾村で構成され、上郷町や長尾台町などには奈良時代の集落跡や縄文、弥生時代の遺跡が多く残されています。近年に入ってから、昭和54年5月にJR根岸線が開通して本郷台駅が開設されて急激に発展し、昭和61年11月には行政区が分区して栄区（栄警察署・栄交通安全協会）が誕生しました。

「はまっ子隊」隊長を務める山田正利さんを紹介いたします。「はまっ子交通安全教室」は、横浜市交通安全協会、地区交通安全協会、地域交通ボランティア等が警察や区役所と連携して、小学生を対象として行う「体験・参加型交通安全教室」です。当協会では、「はまっ子交通安全教室」の充実を図るため、平成21年に「はまっ子隊」を

結成し、児童や高齢者に対する交通ボランティアを行っています。その内容は、自動車の内輪差による巻き込みダミー実験、自転車の安全な乗り方教室、道路の正しい横断の方法等、子ども達を実際に参加体験させる交通安全教育を展開しています。山田さんは、平成3年6月に、栄交通安全協会支部役員として業務運営に参画し、その後、平成13年6月から交通指導員として各季の交通安全運動等の街頭活動等で活躍する中で、「はまっ子隊」の初代隊長に就任しました。13名の隊員とともに、区内小学校14校の児童や高齢者に対する交通安全教育ボランティア活動をしています。交通安全教室の開催に当たっては、小学校や警察署交通課等との打合せや器材の準備等に多くの労力を要しますが、「子どもや高齢者の交通事故をなく

したい。」という強い思いが心の支えとなり頑張っています。交通安全活動を離れず、愛妻との山歩き、ゴルフ、たまには仲間とお酒を酌み交わし、興ずればカラオケで得意の演歌を歌い明日の鋭気を養う行動派でもあります。本年度は、区内14校の小学校で交通安全教室を開催しましたが、特に猛暑であった夏季の活動では隊員の皆様ともどもご苦勞があったと思います。また、年末からは、当協会の新春の風物詩である「交通安全ミニ凧づくり」の準備で忙しくなりますが、凧づくりの骨格をなす籤（ひご）の製作を山田隊長が担当しています。交通安全ボランティア活動に対する思いは強く、これからは「はまっ子交通安全教育」のみならず、地域の実態に即した幅広い交通安全教室の活動を展開したいと抱負を話す山田隊長ですが、健康に留意され、ますますのご活躍を願っています。

（取材協力：栄交通安全協会）

こんにちは
秦野市交通安全協会です

秦野市交通安全協会は、昭和23年3月の発足ですが、平成17年4月の秦野警察署の移転に併せ、警察署と隣接して鉄筋3階建ての事務所を新築しました。立地環境は、基幹道路である国道246号が東西に走り、南北に連なる丹沢山系からの水無川が流れる「名水」の里、落花生の産地として知られる風光明媚な地で、昨年4月に着任した事務長と女子職員4名が交替制で窓口業務を行っています。当協会は、市民の多くの方が免許会員として加入されておりますことから、3年又は5年に一度しか来所しない会員の方が「職員が

親切で、会員になって本当に良かった。」と思っただけのように「親切・丁寧な対応」をモットーに、明るい笑顔で接するとともに、月曜日と連休明けには、申請される方の「待ち時間の減少」と「適切なアドバイス」ができるように、3名態勢に増強して窓口業務を行っています。

一方、交通安全啓発活動は、山口会長以下204人の人情溢れる交通ボランティアの皆さんが、関係機関・団体の方々と連携を図りながら、毎月の交通安全日や各季の交通安全活動を展開しており、特に「新入学児童へのランドセルカバー贈呈」「交通事故犠牲者慰霊祭」「たばこ祭りオープニングパレード」「市民の日イベント」等への参加や協



会オリジナルの交通安全活動も積極的に展開して、市民の交通安全意識の向上に努めています。

今後も、協会来場者に対する真心込めた窓口サービスはもちろん、交通ボランティアに携わっている皆様の交通安全活動が円滑に推進できますよう、職員が一致協力して頑張っておりますので、宜しく願いいたします。

（小林 記）

地区交通安全協会の活動紹介

～秋の全国交通安全運動～



横須賀 ショッピングセンターで開催された交通安全市民総ぐるみ大会で自転車シミュレーターを活用し事故防止を呼びかけました。



藤沢 「藤沢市民祭り」で行われたパレードに参加し、のぼり旗を掲出、沿道の市民に啓発物を配布し交通事故防止を呼びかけました。



大和綾瀬 秋の全国交通安全運動出陣式の後、第二交通安全運動隊員のトライアル演技を見学、災害時の心構えも研修しました。



相模原 鹿沼台児童交通安全公園で自転車シミュレーターを活用し、子供達の自転車安全教室を開催、事故防止を呼びかけました。



鶴見 「しんつるみ祭り」会場に交通安全コーナーを設け、子供・高齢者の交通安全教室等を開催し、交通安全を呼びかけました。



旭 区役所周辺で「交通事故ゼロを目指す日」のキャンペーンを行い、区民に交通事故防止を呼びかけました。



川崎 川崎大師平間寺の自動車交通安全祈禱殿駐車場で子ども会親子の自転車交通安全教室を開催し、事故防止を呼びかけました。



多摩 向の岡工業高校でプロのスタントマンによるスケアードストリートを開催し、高校生に自転車事故防止を呼びかけました。

あなたの会費が交通安全活動に役立っています

編集後記

当協会に勤務し一年が経った。もとより非才であるが経歴と多少の経験を生かし、お役に立てればと思っておりましたが、意に添った活動もできず、むしろ周囲の方々に支えられながらの一年でした。

そのような中、地区協会の皆様が文字どおりボランティアとして各種キャンペーンや街頭指導等に、日々熱心に取り組まれていることを目の当たりにし、本当に頭の下がる思いです。

県内の交通事故件数は年々減少しておりますが、地区協会の皆様方の長年にわたる地道な活動が、交通事故の減少に大きく貢献していると改めて認識した次第です。

今後共、悲惨な交通事故を一件でも減少させるべく一層のご尽力をお願いいたします。

今月は、「飲酒運転根絶強化月間」です。当協会が「ハンドルキーパー運動」を始め、早や四年が経過しました。この間、地区協会の皆様には、様々な活動を積極的に展開していただき、近頃は「ハンドルキーパー運動」が県民運動の一つとして定着してきております。

当協会では、今後とも「ハンドルキーパー運動」を通して飲酒運転根絶対策を強力に推進してまいります。更なるご支援、ご協力をよろしくお願いたします。

(N・N)